

敬老の日特集 ご長寿インタビュー

最高齢103歳



《明治45年2月25日生まれ》
満103歳

のこと。

そんなおばあちゃんの健康法は、体操をすること。自宅のベッドで手や足の運動をしたり、社会福祉協議会で体操をする時は「1、2、3」と大きな声を出しながら体操をするそうです。「その方が力が入って張り合いがある。幼稚園の保母さん（さかい幼稚園）をやっていたので、声出すの慣れているし、今でもついついやちやうんだよね」と教えてくれました。

長寿の秘訣はクヨクヨしないこと

現在103歳で、境町の最高齢者である野村キヨさんは、話もしつかりとしている元氣なおばあちゃんです。

キヨさんに長生きの秘訣を聞いてみると、「あまりクヨクヨしないこと。怒られてもあまり腹立たない。食べ物は好き嫌い無し。」と答えてくれました。特に好きな食べ物を聞くと、「肉よりも魚の方が好きだね。果物は何でも食べる。」と



そして、家族から見たキヨさんは、「耳は少し遠いけど、一度も入院したことがなく、とても丈夫。何かやっであげると、お礼の言葉を言ってくれる。」そんな優しいおばあちゃん。いつまでも元氣に長生きしてください。

今年度100歳



《大正5年2月20日生まれ》
満99歳

敬老の日特集として境町の最高齢者である103歳の野村キヨさんと、来年2月で満100歳になられる倉持はなさんにお話を伺いました。まだまだ元氣な2人のおばあちゃん、これからは健康やかに長生きしていただけるようご祈念申し上げます。

そんなはなさんの長寿の秘訣は、「規則正しく三度の食事をしつかりとり、何でも食べる事。」

好きな食べ物は、「刺身・カレーライス・餃子・すいか・酢の物が好きで、大好物は心太。」暑かったこの夏も、すいかや心太で乗り切りました。趣味は、読書とテレビを観る事。今でもテレビで相撲観戦をするそうです。

お店でバリバリ仕事をしていた頃は、しゃべり言葉なども少しきつかったというはなさんですが、今では丸くなり、優しいお婆ちゃんになった、と家族の方が教えてくれました。

三度の食事をしつかりと何でも食べる

来々2月20日の誕生日で満100歳を迎える倉持はなさんは、とにかく商売熱心で、おもちゃや駄菓子、花火を扱っていた「倉持商店」で、90歳までほとんど毎日店先に立ち、93歳まで自転車に乗っていたほど元氣なおばあちゃんです。

病氣もほとんど無く、今でも眼鏡無しで新聞を読むほど目がとても良いそうです。



俳句

兼題「新秋・つくつく法師・西瓜」他当季雑詠
八月十五日 境町文化協会俳句部

法師蟬声透き通る宮の杜 省三

※オシシツクツク、オシシツクツクと鳴く法師蟬。その透き通った声を聞くにつけても田舎で暮らした頃の近くの鎮守の杜の木立が懐かしい。

法師蟬七日の余命鳴きつくし 信子

※わずか一週間ほどのいのちを、法師蟬が懸命に生き抜こうとしている。限られた時間を鳴きつくそうとするその姿に、あらためて命の尊さを痛感する。

美味も美味夫の手塩の西瓜かな なか

※いつものように、今年も夫が西瓜を作った。家族で味わう初取りの味・・・評価は上々。何せ夫の愛情が詰まった西瓜だもの。美味しくない筈がない。

新秋や朝の大地の心地よさ ちよ

元教師自作と西瓜揚げ来たり つね女

不揃いの西瓜転がる納屋の隅 ちから

新秋や同僚と訪ねし蕎麦処 久子

寺掃除大玉西瓜のにぎやかさ 登

新秋のカーテン開けし山野かな 弥生

思案どき心を乱す法師蟬 譲一

法師蟬鳴いて節しる風情かな 正六

寝つかれず開けし窓より秋の風 仁

藤椅子に新秋の風穏やかに 健二

西瓜切る末娘の真顔おそれけり まもる
家族皆揃えば楽し西瓜割り 幸子
新秋や流れる雲も野の花も 光夫
高原の駒の嘶き秋の空 きみ代
つくつく法師声の切れ目の夕支度

短歌

境短歌会 山鳩

八月のお寺の鐘は慰めの戦後のふしめの静かに聞こゆ 川上ヒサ

畑の中眩しく光るビニールのハウスの中は野菜生き生き 稲田 美重子

戦ゆえすべてをなくした吾が母は苦労重ねて子を育てし 飯田 俊子

薄雲を張って暑し八月の空汗ぬぐいて一日終る 松岡 美智子

夕やけにそまる真綿雲東へと蟬鳴きくるう夏の夕ぐれ 本島 いと子

四国路の八十八寺を結願し仏のような慈悲深き友 五月女 三枝子

(境クリニツクにて)

庭隅の蛇口ひねれば出る水は沸し湯のごとく猛暑日の昼 鈴木 喜与子

打ち水をうちて涼風通り過ぎ暑き一日ひぐらしの声 桜井 レイ

何時しらすひつそりと咲く朝顔は心を癒す紫紺の小花 斉藤 敬子

スイカ割り夜空の花火見上げつつ孫達はしやし夏休み来る 川村 米子

花巻の白きアカシャ眺めつつ浪漫的な景色を楽しむ 風間 リヨ子

記録的な猛暑の夏も終り、すがすがしい季節となりました。爽やかな秋、食欲の秋、読書の秋、行楽の秋と秋を表わす言葉がいろいろとあります。紅葉前線に乗り北の方から秋は徐々に深まって来ると思っています。この秋のさわやかな風情を楽しみながら歌を詠む事が出来れば幸いです。

意外な事実▶約80%の都道府県で地元紙が県内シェアNo.1と言う事実!

悪い、悪い、悪い、それは茨城新聞社でした!

県内の細かなニュースはテレビ、ネットには登場しません。なのに、残念ですが地元紙「茨城新聞」のシェアは第3位です。悪いのはアピール不足の茨城新聞社です!でも、地元の話題や県内スポーツ等、皆さんの身近なニュースは質、量ともNo.1!是非この機会に無料で体感してください。

無料進呈 茨城新聞を7日間無料で毎朝、お届け致します。

お申込は 茨城新聞社 TEL 0120-029-218